

おにたのぼうし あまんきみこ作

指示 不思議さを考えたいので、様子を表す言葉で繰り返しのあるものを書き出す。

〔板書事項〕

第一次指導（1時間扱い）

〔区画〕六区画（教科書の区画）

- 1 節分の 2 粉雪が 3 部屋の
- 4 それから 5 女の子が 6 お母さんが
- 一よむ（音読 六名 1〜3を二名…九名でも）
- 二とく

○ 題目（おにたのぼうし と板書）

- ① 「おにた」の絵（最初の絵）を開けて。
特徴（肌の色・歳・気のいい・恥ずかしがり屋・鼻がきく・はだし・不思議な力）
- ② ぼうしの材料は。（麦わら 麦と板書）
- ③ 帽子の中にあるのは。（角）
- ④ この日は何の日でしたか。（節分 板書）
- ⑤ 物置小屋に豆撒きするのは。（まこと）
- ⑥ 逃げ出したおにたはなぜ麦わら帽子を被ったの。（鬼だと分からないように）

◎ ひびき

- ⑦ おにたが姿を見せた絵を見ながら
・お盆の上の物は。・女の子の歳は。
- ⑧ その子の願いは。（豆撒き 母の病気）
- ⑨ 女の子と帽子の絵を見て、この中には何が入っているのか。（黒豆）
- ⑩ おにたは帽子だけ残して、どこへ行った
んのでしょね。不思議な鬼の話です。

○ 手引き（視写の指示）

三よむ

四かく

- ⑨ 最初はみんなで探す。

（擬態語 「いろいろ」は別だが…）

- 1 ぴかぴか・いろいろ 2 きよろきよろ
- 3 ところとろ・むずむず

- ⑩ 4・5はさがして、6はないので○

五よむ

六とく

○ 事実・区分

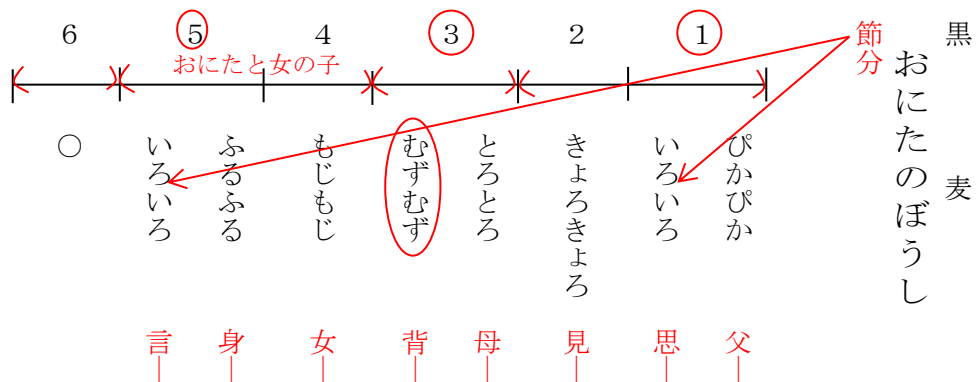
- ① おにたがしたのは。（きーむーふーびー）
*隠れ家に入ろうと、きー見回す。同様に。
- ② とー、もーは誰の様子。（母、女の子）
- ③ 「いろいろ」と口に出たのは。
〔区分〕 普通は人に姿を見せないのに見せているのは（4・5）
姿を見せるもと（3）
起承転結の四区分になる。

◎ 山

- ④ 三時間、詳しく読む。どこを希望するか。
・「おにたのぼうし」を考える場面。（5）
・そのもとになった場面（3）
・おにたの願いが分かる場面（1）

○ 余韻

子供たちの中に残ると…
（おにたは黒豆になったのかなあ）



第二次指導第一時

- 一 よむ 三名（または六名）（1～3区画）
二 とく

○ おさらい（区画線をかいて）

- ① 女の子の家の中が分かるのは何番から。
（3から）女の子が豆撒きしたのは。（6）
② 女の子の様子は。（4 もー 板書）
③ 3と5には、何を書いた。

- ④ 残りは。（3 うーむー 5 ふーいー 板書）
⑤ 残りは。（1ぴー 2きー 6〇 板書）

◎ 承接

- ⑤ おにたがまことに家に来たのは。（春）
⑥ おにたがまことにしたことの一つは。
（昨日もビー玉を拾って…）
⑦ 他にもやったが、気付いた人は。（なし）
⑧ 物置小屋にも豆撒きをしようと、言ったのは誰。（まこと）

○ 手引き

指示 その時のおにたの気持ちを考えながら、豆撒きの声を聞きながら思ったことから1の最後までを書く。

四三 よむ
かく

「人間っておかしいな。
おには悪いって、決めて
いるんだから。おにも、

いろいろあるのにな。」
そして、古い麦わらぼうしをかぶりました。角かくしのぼうしです。

こうして、カサツとも音をたてないで、おにたは、物置小屋を出ていきました。

五 よむ
六 とく

○ 語義・区分

- ① 難しい言葉は。 おかしいきめているだからにも…のにこうして とも
② それぞれ二区分（思いと理由、行為二つ）
③ おにたがおかしいと思っっていることは。
（決めていること）

どう決めているの。（鬼は悪いと）
おにたは、どう見るのが正しいと。
（いろいろな鬼がいること）

- ④ 残念な気持ちがどこに出ている。
（言葉な 倒置を1文に直す）

- ⑤ おにたの不思議な力が出ているのは。
（…とも音を…沈着そしてこうして）

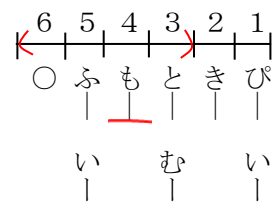
○ 余韻

気持ちわかるなあ、見た目じゃないよな。

七 よむ（指音読一回 消しながら暗唱…）

* 「な」の扱いは、入れない場合と入れる場合の違いを大げさにして見せる。
一文だと説明になり、強調されない。

書事項



音を聞きながら…

「人間³っておかし²いな。」
おには悪い²って、決めて
いる¹んだから。おにも、
いろいろあるの¹にな。」
そして、古い麦わらぼうし
をかぶり¹ました。角かくしの
ぼうし¹です。
こうして、カサツとも¹音を
たて¹ないで、おにたは、物置
小屋を出て¹いきました。

第二次指導第二時

- 一 よむ 三名（または六名）（1〜3区画）
- 二 とく
- 〇 おさひい

① 「鬼は外」と聞いて「おかしい」と思った。何がおかしいの。（おに悪決と板書）

② いろいろな鬼（泣いた赤鬼の話）がいるのに……。おにたは、自分をどう思っている。（まことの家族を助けているのに……）

◎ 承接

- ③ 物置小屋を出ると外は。（雪）おにたの格好は。頭には（麦）足は（はだし）
- ④ 寒くないのね。不思議な力がある。特に素晴らしいのは。（鼻）
- ⑤ その鼻を使って、次の隠れ家を見つけた。どんな家。（橋 トタン屋根 節分 板書）
- ⑥ 住んでいるのは。（女）母 板書
- ⑦ どこに隠れた。（はりの上）
- ⑧ そこで何を見て（タオル ねっ 板書）どこへ行った。（台所）

〇 手引き

指示 話を聞いたおにたの気持ちを考えながら、台所へ行ってからことを書く。

- 三 よむ
- 四 かく

「ははあん——。」
台所は、かんからかんに
かわいています。米つぶ
一つありません。大根一切
れありません。

「あのちび、何も食べちゃ
いないんだ。」
おにたは、もう夢中で、
台所のまどのやぶれた
所から、寒い外へとび出
していきました。

五 よむ

六 とく

〇 語義・区分

① 難しい言葉は。

ははあん —— かんからかん

◎ 心

- ② おにたの夢中な様子が分かるは。（とび出す 窓の破れ 傍線）
- ③ 夢中になるもとが、前にある。（何も食べちゃいないんだ）
- ④ どこで、食べてないと。（一つありません 一切れ—— かわいています）
- ⑤ それは、思った通りと分かる。（ははあん のだ）

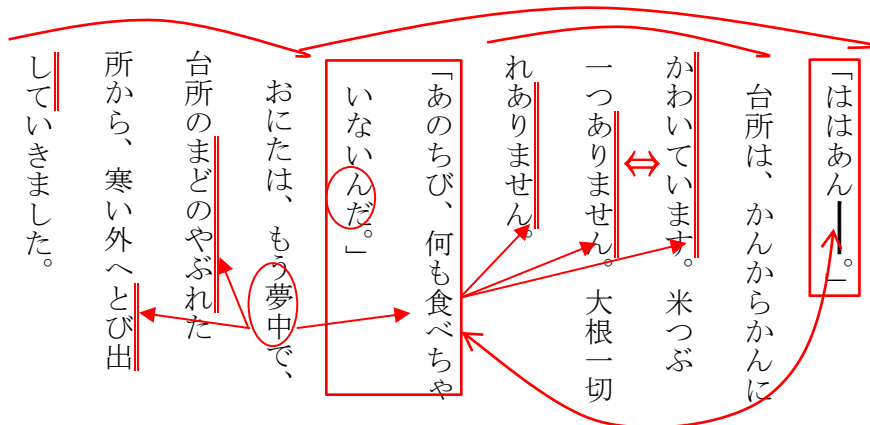
〇 余韻

優しさが体中から出ている鬼ただなあ。

七 よむ（指音読一回 消しながら暗唱……）

〈板書事項〉

おに 悪決
橋 トー屋根 ~~節分~~
女——タオル
母 ねっ



第二次指導第三時

- 一 よむ 四名（あるいは五名）（3〜6）
- 二 とく

○ おさらい

① おにたが、思った通り何も食べていない。外に出たが、音を立てたか。

（音を立てない）

② どこから出たからか。（破れた窓）

◎ 承接

③ 寒い外から戻ったおにたが持っていたお盆のような物の上にあったのは。

（赤ご飯 煮豆）

④ これは、誰の言った通りの物なの。

（女の子が母に話した通りの）

⑤ 二つとも寒い外から持ってきたのに。

（温かい おにたの心のように）

⑥ 女の子は、直ぐに手を出したか。

（もじもじしていた 幼い子）

⑦ 女子が箸を持ったまま言ったことは。

（まめまきをした）

○ 手引き

指示 二人の気持ちを考えながら驚いたおにたの言葉から最後の言葉まで書く。

三 よむ

四 かく

「なんだって？」

おにたはとび上がりました。

「だって、おにが来れば、

きつと、お母さんの病気

が悪くなるわ。」

おにたは、手をだらりと

下げて、ふるふるっと、

悲しそうに身ぶるいして

言いました。

「おにだって、いろいろあるのに。おにだって……。」

五 よむ

六 とく

○ 語義・区分

① 難しい言葉は。

とび上がる だって きつと

だらりと 身ぶるい ……

〈区分〉話者確認 三区分

◎ 心（文章の核心を味わう）

② 女の子の願いは。（母の病気）

③ 女の子が信じていることは。

（きつと 鬼は悪）

④ おにたの驚きが分かる様子は。

（とび上がる）

⑤ 悲しくなったのが分かる様子は。

（手をだらり 身ぶるい）

⑥ おにたの言葉にも、出ている。

（なんだって？ ……）

⑦ おにたは女の子のことを考えてしたこと。（黒い豆を… 黒―板書）

⑧ その豆を使って豆まきをする女の子の考えたことは。（神様が来た 神様）

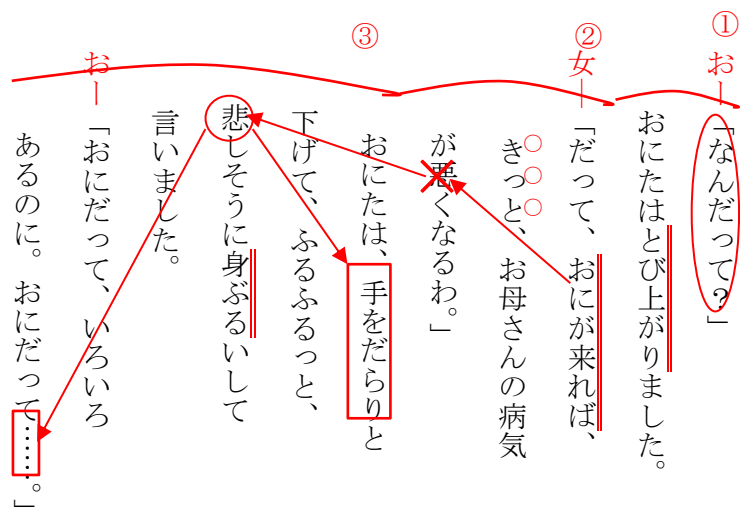
○ 余韻

おにたは優しい鬼だなあ。

七 よむ（指音読一回 消しながら暗唱…）

〈板書事項〉

~~温~~ まー寒
赤―豆



黒…
神様